

高嶺 格

Takamine Tadasu

とおくてよくみえない
T O O F A R T O S E E

2011年1月21日(金)～3月20日(日)

現代美術家・演出家、高嶺 格。
そのユーモアに満ちた作品を紹介する、
首都圏初の大規模な個展。



テーマとみどころ

本展は、現代美術家・演出家の高嶺格（たかみね・ただす）の首都圏初の大規模な個展です。2000年代初頭の作品から、横浜で滞在制作される新作までを紹介いたします。

サブタイトルの「とおくてよくみえない」とは、混雑した展覧会で観客がしばしば発するフレーズの一つです。本来、自由な表現によって成り立つ美術作品が、美術館や展覧会という様々な制約の中で展示されることで生じる矛盾。最新作において高嶺が制作の出発点に据えたのは、そうした齟齬に対する素朴な疑問と興味です。ここから出発した高嶺が、その先に見つけるものは何なのか。それはきっと思いもよらない作品として、私たちの前に現れてくることでしょう。

写真/題字 高嶺 格



制作テーマ

高嶺格は、平面、立体、映像作品をはじめ、音や映像、PC制御による仕掛けなどを駆使したメディア横断的なインスタレーション、パフォーマンス、舞台の演出など、多彩な表現形態により、常にインパクトを与える作品を発表しています。2003年のヴェネツィア・ビエンナーレをはじめ、2004年の釜山ビエンナーレなど国際展への出品も数多く、国内外で高い評価を得ています。2005年の横浜トリエンナーレ（第2回）では、劇場のように巨大な空間で、自身の故郷である鹿児島の方言と、世界語として生み出されたエスペラントの言葉を、映像と土に型押しした文字で映し出していく映像インスタレーション《鹿児島エスペラント》（次ページ図1参照）を発表。光と音、オブジェと映像が一体となって展開したこの作品は、高い注目を集めました。

高嶺が制作の糸口とするのは、現代社会における不条理性です。アメリカ中心に進むグローバリズムへの批判を、巨大な粘土の塊と格闘する人間の振舞いにより象徴的に表現した《God Bless America》（2002年、映像作品 次ページ図2参照）、自身の恋人との関係性から、在日外国人をめぐる差別的な感情の問題に触れた《ベイビー・インサドン》（2004年、映像インスタレーション）、プレハブ工法の普及により失われていく伝統的な住居建築についての意識を呼び起こす《Good House, Nice Body》（2010年、映像インスタレーション）など、高嶺は人間の行為に潜む矛盾や非合理的な側面に目を向け、批評的に、そしてユーモアあふれる作品として提示します。

黄金町での滞在制作

展覧会に先立ち、2010年12月より、横浜の黄金町で、本展に向けた滞在制作（NPO法人黄金町エリアマネジメントセンターと共同）を行います。その様子は、横浜美術館ホームページ「ヨコビブログ」で随時お知らせします。

ヨコビブログ →<http://www.yaf.or.jp/yma/publicity/>

取材をご希望される場合はお問合せください。

お問合せ：横浜美術館 広報担当（慶野、佐藤、岩上）

TEL:045-221-0319 FAX:045-221-0317

e-mail:pr-yma@yaf.or.jp

関連イベント

本展会期中には、横浜トリエンナーレのアーティストックディレクターに就任した三木あき子氏との対談などの関連イベントを開催します。また、連携企画として、横浜赤レンガ倉庫での高嶺格演出作品『Melody♥Cup』の上演など、高嶺の表現を多角的にご紹介します。（別ページをご参照ください）

高嶺 格（たかみね・ただす）



1968年、鹿児島生まれ、現在滋賀在住。京都市立芸術大学工芸科漆工専攻卒。岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー修了。主な個展に、2003年「在日の恋人」（NPO丹波マンガン記念館、京都）、2008年「[大きな休息]明日のためのガーデニング1095㎡」（せんだいメディアテーク、宮城）、2010年「スーパーキャパシターズ」（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川）、「Good House, Nice Body ～いい家・よい体」（金沢21世紀美術館長期インスタレーションルーム、石川）。また2003年、第50回ヴェネツィア・ビエンナーレへの参加をはじめ、2004年、釜山ビエンナーレ、2005年、横浜トリエンナーレ（第2回）、2010年、あいちトリエンナーレなど、数々の国際展をはじめ国内外のグループ展に多数出品している。1993-97年にかけて、パフォーマーとしてダムタイプで活動したほか、金森穰／寺田みさこらのダンス作品における舞台美術、音楽家の大友良英とのコラボレーションなど、他ジャンルとの共同制作も数多い。近年は、自らが演出を手がける舞台作品を発表し、演出家としても活動。



出品内容について

本展では、高嶺の代表作《God Bless America》や、自身の恋人との関係性から、在日外国人をめぐる差別的な感情の問題に触れた《在日の恋人》《ベイビー・インサドン》などの要素を含みつつ、横浜で滞在制作される体験型の大型インスタレーションへと展開していく予定です。

ここでは、高嶺の過去の作品から代表的なものをご紹介します。

※ 新作および会場風景の広報用画像については、展覧会開幕後にご提供いたします。



《God Bless America》 図2

9・11事件後のアメリカのアフガニスタン侵攻政策に対する批判を出発点に、クレイアニメの手法で制作されたビデオ作品。2トンの粘土でできた巨像が「ゴッド・ブレス・アメリカ」を謳っているかのように動き、巨像と、それを動かすために奮闘する人間の姿が対照的に映し出される。高嶺の代表作の一つとして、多くの美術館に収蔵されている。

2002年、映像作品 (8'18") ※本展出品予定



《鹿児島エスペラント》 図1



2005年、映像インスタレーション(ミクストメディア)

2005年に開催された「横浜トリエンナーレ」(第2回) 出品作。巨大な空間に土を敷き詰め、様々なオブジェを設置。土に書いた文字と映像で、鹿児島弁と世界共通語・エスペラント語の言葉が映し出される映像インスタレーション。グローバリズムとローカリティの問題を、自らの出身地の方言と人工言語により象徴的に表現。



2008年
せんだいメディアテークでの
展示風景

《大きな停止》

解体される1軒の民家に残されていた家財道具や建具、毛布や古い着物などを展示室内に持ち込み、映像、光、様々なサウンドなどとともにインスタレーションを構成。鑑賞者は、視覚障がい者のガイドに伴われて、展示されたオブジェに触れ、対話しながら会場を巡り、視覚だけでは得られない感覚を体験する場となった。



2010年
国際芸術センター青森での
展示風景

《Free House》

伐採される赤松の木を、根ごと掘り起こし、宙に浮いているかのように設置したツリーハウス。



会期中のイベント

▶ 三木あき子氏×高嶺 格氏 クロストーク

横浜トリエンナーレ2011のアーティストック・ディレクターに就任した三木あき子氏と高嶺格氏の対談。横浜トリエンナーレ2005の会場で、ひととき注目を集めた映像インスタレーション《鹿児島エスペラント》の記録を紹介しながら、国際展とは何か、アーティストとキュレーターそれぞれの立場から語っていただきます。併せて、本展の見どころなどを紹介いたします。

日時：1月22日(土) 15:00-16:30

会場：横浜美術館レクチャーホール(定員240名、無料) ※開場は開演の30分前



三木あき子

(横浜トリエンナーレ2011 アーティストック・ディレクター)

米国ワシントン大学美術史科卒業、パリ第四ソルボンヌ大学美術史科修士課程修了。インディペンデント・キュレーター、電通アートプロジェクト共同ディレクター等を経て、2000年よりパレ・ド・トーキョー チーフ・キュレーター。多くの企画展を手掛ける他、アジア・パシフィック・トリエンナーレ、リヨン・ビエンナーレなどの国際展での経験も多数。

写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会

▶ 高嶺 格 トーク

本展出品作家・高嶺格氏によるトーク・イベント。出品作品のことや展覧会のテーマ、横浜での滞在制作の様子など、作家自身に語っていただきます。

日時：3月19日(土) 15:00-16:30

会場：横浜美術館レクチャーホール(定員240名、無料) ※開場は開演の30分前

▶ 学芸員によるレクチャー

本展を担当した横浜美術館学芸員によるレクチャー。高嶺格のこれまでの活動や、本展のための新作までをご紹介します。併せて展覧会のメイキングの様子などもお話しします。

日程：2月 5日(土) 天野 太郎(横浜美術館 主席学芸員)

2月12日(土) 太田 雅子(横浜美術館 学芸員)

3月 6日(日) 木村 絵理子(横浜美術館 学芸員)

時間：各回15:00-16:00

会場：横浜美術館レクチャーホール(定員240名、無料) ※開場は開演の30分前



連携企画

▶ 高嶺 格演出作品『Melody♥Cup』 主催：『Melody♥Cup』公演事務局／共催：TPAM in Yokohama

現代美術作家、高嶺格の演出による舞台公演。首都圏初の本格的舞台作品の発表となります。

2009年8月にアイホール（兵庫県伊丹市）で初演された舞台作品、高嶺格演出『Melody♥Cup』。2010年秋タイ・バンコクでのレジデンスと上演を経て、さらにパワーアップしてこの横浜に登場します。タイと日本のパフォーマーとのコラボレーションによる本作は、社会的な問題をモチーフにしつつも、次々とユーモア溢れるシーンが展開していきます。身体・音・映像・光が放つ、ミクストメロディ (mixed melody) が奏でられる時空間をぜひ体感してください。

日時：2月19日(土) 15:00ー／19:30ー、20日(日) 14:00ー／18:00ー

会場：横浜赤レンガ倉庫1号館

前売料金：一般3,200円 学生 & ユース2,200円 (当日各500円アップ)

チケット発売日：12月3日(金)

チケット取扱・お問合せ：『Melody♥Cup』公演事務局 tel:075-252-5655

※兵庫公演もあり。2月12日(土)～14日(日) アイホール tel:072-782-2000



『Melody♥Cup』2009 撮影：竹崎博人

相互割引サービス実施!

上記公演と高嶺格展では、互いのチケット提示による相互割引があります。公演チケットのご提示により、高嶺格展を200円割引でご覧いただけます。また、展覧会半券を公演当日の受付でご提示いただくと、200円のキャッシュバックを受けられます。

相互割引プラン!

▶ 三つの美術館 (森美術館＋東京オペラシティアートギャラリー＋横浜美術館) を巡って、現代美術の先端を満喫! 「小谷元彦展」「曾根裕展」との相互割引を実施

ヴェネツィア・ビエンナーレをはじめ数々の国際展に出品するなど、次世代の日本の現代美術界を担うアーティストである小谷元彦と曾根裕の個展が、この冬、森美術館と東京オペラシティ アートギャラリーでそれぞれ開催されます。彼らは伝統的な芸術表現の歴史と真摯に向き合いつつ、平面、立体、映像インスタレーションなど多様な表現形態を自由に横断しながら制作しています。彼らの挑戦的な展示を、本展と併せてお楽しみください。

本展チケットを、以下2つの美術館でご提示いただくと、各展覧会を200円引きでご覧いただけます。また下記いずれかのチケットのご提示で、高嶺格展を200円割引でご覧いただけます。

(1枚につき1名様、各展覧会1回限り有効。)

○森美術館

「小谷元彦展：幽体の知覚」 2010年11月27日～2011年2月27日(会期中無休)

入館料：一般1,500円→1,300円／学生(高校・大学生)1,000円→800円／子供(4歳～中学生)500円→300円

○東京オペラシティアートギャラリー

「曾根裕 Perfect Moment」 2011年1月15日～3月27日(月曜・2/13・3/22休)

入館料：一般1,000円→800円／大・高生800円→600円／小・中生600円→400円



高嶺 格：とおくてよくみえない

会期：2011年1月21日(金)～3月20日(日)

会場：横浜美術館

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 Tel.045-221-0300 Fax.045-221-0317
<http://www.yaf.or.jp/yma/>

開館時間：10:00～18:00(金曜は20:00まで開館、入場は閉館の30分前まで)

休館日：木曜日

入場料：一般 1,100(900/1,000)円

大学・高校生 700(500/600)円、中学生 400(200/300)円、小学生以下無料。

※()内は(前売り/有料20名様以上の団体<要事前予約>)料金。

※毎週土曜日は高校生以下無料(要学生証・生徒手帳)。

※障がい者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料。

※本展観覧券で横浜美術館コレクション展もご覧いただけます。

※リピーター割引:観覧済みの企画展有料チケットをご提示いただくと、団体料金でご覧いただけます。
(観覧日から1年間、1名様1回限り有効)

★この他、お得な割引プランがあります(5ページ参照)

主催：横浜美術館[横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント 共同事業体]

後援：横浜市市民局

協力：NECディスプレイソリューションズ/NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター/横浜トリエンナーレ
組織委員会/横浜トリエンナーレサポーター事務局/みなとみらい線/横浜ケーブルビジョン/
FMヨコハマ/首都高速道路株式会社

助成：財団法人地域創造/アサヒビール芸術文化財団

◎ お問い合わせ

横浜美術館 広報担当(慶野、佐藤、岩上)

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1

Tel. 045-221-0319 Fax. 045-221-0317

e-mail: pr-yma@yaf.or.jp



高嶺 格 とおくてよくみえない

Takamine Tadasu

Too Far To See

画像請求フォーム

媒体名: _____

御社名: _____

ご担当者: _____

所在地: _____

電話: _____

メールアドレス
(データ送付先): _____

画像はデータにてご提供いたします。

希望される画像にチェックを入れ、媒体名、御社名、ご担当者、ご連絡先などをご記入の上、本用紙をFAXでお送りください。

ご請求いただいた画像は、1~2日程度、お手元に届くまでのお時間を頂戴いたしますので、ご了承ください。

※3, 4, 5は本展には出品されません。

※画像は、本展の取材・告知を目的とする場合に限りご提供いたします。個人の鑑賞および利用を目的とする場合にはご提供できません。

<p>1</p>  <p>*本展イメージ画像 高嶺 格「とおくてよくみえない」 "Too Far To See" <input type="checkbox"/> この画像を希望</p>	<p>2</p>  <p>*本展出品予定 高嶺 格《God Bless America》 2002年 映像作品(8'18") <input type="checkbox"/> この画像を希望</p>	<p>3</p>  <p>高嶺 格《鹿児島エスぺラント》 2005年 映像インスタレーション (ミクストメディア) <input type="checkbox"/> この画像を希望</p>	<p>4</p>  <p>高嶺 格《鹿児島エスぺラント》 2005年 映像インスタレーション (ミクストメディア) <input type="checkbox"/> この画像を希望</p>
<p>5</p>  <p>高嶺 格《Free House》 2010年 国際芸術センター青森での展示風景 <input type="checkbox"/> この画像を希望</p>	<p>6</p>  <p>高嶺 格 <input type="checkbox"/> この画像を希望</p>	<p>読者プレゼント用チケット (5組10名様分)を <input type="checkbox"/> 希望します。</p> <p>※希望される方は上記<input type="checkbox"/>にチェックを入れてください。 ※チケットの発送は原則として掲載紙・誌が横浜美術館 に届いてからとさせていただきます。</p>	

※作家へのインタビューをご希望の場合は、別途お電話 045-221-0319
もしくはメール pr-yama@yaf.or.jp にてお問い合わせください。

